

J R 四 国 労 組 ニ ュ ー ス

2023年2月3日（N o 17） 発行責任者／大谷 清 編集責任者／石川 敏也

「松山駅付近連続立体交差事業の 高架切替時期の見直し等」について

松山駅付近連続立体交差事業について、2023年度中の高架切替を目指して工事を進めてきたところ、今般、高架の橋桁や橋脚の設計に誤りがあることが判明するとともに、工事の手直しと工期の見直しが必要となることが明らかとなった。

本部は本件に対し、発第61号「『松山駅付近連続立体交差事業の高架切替時期の見直し等』について」申し入れを行い、会社より以下のとおり回答があった。

- 1 今回の高架切替時期の見直し等について、どのように受け止めているのか会社の考え方を明らかにされたい。

地域の住民の皆様や鉄道をご利用のお客様が待ち望んでいる高架切替時期に遅れが生じることを重く受け止めており、これ以上遅れないことはもとより、1日でも短縮できるよう鋭意工事を進めてまいります。

- 2 構造物設計誤りの再発防止に向け、今後の対策について明らかにされたい。

今回の事象はいずれも設計会社が成果物の確認を適切に行っていなかったことが原因です。また、三番町架道橋の事象については、施工会社が測量による確認を適切に行っていれば、橋脚を構築する前に誤りに気付くことができたものです。

このため、同様の誤りが起こらないよう、関係社員に①誤りの原因、②設計会社による確認が確実に行われたことがわかるよう成果物に記載すべきこと、③施工会社に着工前の測量を適切に実施させるよう指導を徹底することを文書により周知しました。

- 3 高架切替時期の見直し等により、手直し工事が生じ、工期が延長されるが、かかる費用負担を明らかにされたい。また、開業に向けては今後滞りなく進められるよう、他の工事への影響も踏まえながら、必要な要員確保とともに、当該事業に関わる組合員をはじめグループ会社や協力会社を含む工事従事者への過度な負担とならないことに配慮したうえで、工期設定等について関係主体と調整を図られたい。

費用負担については、設計会社および施工会社と協議中ですが、増加費用は数億円規模になることが想定されることから協議に時間を要している状況であり、現時点では未定です。

必要な要員確保については最大限努めるとともに、工期設定等については関係機関と調整しながら、組合員への過度な負担とならないよう配慮してまいります。

松山駅付近連続立体交差事業は、関係する自治体や地域住民の協力のもと進められている事業であり、今回の見直し等による影響は多岐にわたることが想定される。

J R 四国労組は、安全・安定輸送の確立が最重要課題であるとの認識のもと、引き続き会社に対する「チェック・提言機能」強化の運動を展開する。

以上